

ねん . がつ にち
2022年1月30日

ねんかんだい しゅじつ
年間第4主日

きくち いさおだい しきょう
菊地功大司教 メッセージ

かみ のぞ せ かい じつげん いったい
神の望まれる世界が実現しないのは、一体どうしてなのでしょう。

ふくいん かいどう みずか しめい する しょ ろうどく あと かみ
ルカ福音は、ナザレの会堂でイエスが自らの使命を記したイザヤ書を朗読した後に、神
ことば ひ じつげん つ あと する かみ ことば せつ ひとびと
の言葉がその日に実現したと告げた後のことを記しています。神の言葉に接した人々は、
じぶん し ことば こ い いったい
自分たちがよく知るヨセフの子が、このようなことを言うとは一体どういうことだと、
つまづいたことを記します。

かみ のぞ せ かい じつげん いちばん りゆう かみ ことば す なお
神の望まれる世界が実現しない一番の理由は、わたしたちが神の言葉を、そのまま素直
う と
に受け取ることができないことにあります。わたしたちは、う 受けたことば かいしゃく
おうおう かいしゃく かみ おも お はか しきべつ じぶん けいけん ちしき
往々にしてその解釈は、神の思いを押し量ろうとする識別ではなく、自分の経験と知識
もと ほんだん かいしゃく かみ ことば よ か ち かん わく かいしゃく
に基づいた判断による解釈です。神の言葉を、この世の価値観という枠にはめて解釈
しようとする事によって、わたしたちはその実現を阻んでしまいます。

しょ よげんしゃ しょうめい ものがた たんじょう まえ かれ
エレミヤ書は、預言者エレミヤの召命を物語っています。エレミヤが誕生する前から、彼
よげんしゃ えら かみ こし おび し た かれ かた めい
を預言者と選ばれていた神は、「あなたは腰に帯を締め、立って、彼らに語れ」と命じま
す。しかも、「わたしが命じることをすべて」語るようにと、かみ しじ
神は指示します。すなわち、
かた かいしゃく ちえ ちしき もと
エレミヤが語ろうとすることはエレミヤの解釈ではなく、エレミヤの知恵と知識に基づ
ことば かみ かた つ めいれい
いた言葉ではなく、神が語ることを「すべて」そのまま告げるようにとの命令です。
にんげん か ち かん わくぐ かいにゆう よ ち かんたん う い
そこに人間の価値観の枠組みが介入する余地はありません。だからこそ、簡単には受け入
れられないのです。きよぜつ たい
拒絶されるのです。それに対して、「わたしがあなたと共にいて、救
だ かみ やくそく かみ ことば したが よ か ち かん
い出す」と神は約束されます。神の言葉に従い、それをこの世の価値観によってゆがめ
ることなく伝えようとするものに、かみ とも やくそく
神は共にいてくださるという約束であります。

たん かみ ことば く かえ よ
とはいうものの、ただ単に神の言葉を繰り返していればそれで良いわけではないと、パ
きょうかい てがみ する ひとびと ことげん てんし
ウロはコリントの教会への手紙に記します。すなわち、「たとえば、人々の異言、天使た
ことげん かた あい さわ
ちの異言を語ろうとも、愛がなければ、わたしは騒がしいどら、やかましいシンバル」

にすぎないと、パウロは記^{しる}します。

わたしたちは、愛^{あい}の心^{こころ}を持って、神^{かみ}の言葉^{ことば}を語り^{かた}伝え^{つた}なくてはなりません。この世^よの価値^か観^{かん}の枠^{わく}ではなく、神^{かみ}の愛^{あい}の価値^か観^{かん}の枠^{わく}を前面^{ぜんめん}に掲^{かか}げて、神^{かみ}の言葉^{ことば}を告^つげしらせなくてはなりません。

「愛^{あい}は、忍耐^{にんたいづよ}強い。愛^{あい}は情^{なさ}け深^{ぶか}い。ねたまない。愛^{あい}は自^じ慢^{まん}せず、高^{たか}ぶらない。礼^{れい}を失^うせず、自分^{じぶん}の利益^{りえき}を求め^{もと}ず、いらだたず、恨^{うら}みを抱^だかない。不^ふ義^ぎを喜^{よろこ}ばず、真^{しん}実^{じつ}を喜^{よろこ}ぶ。すべてを忍^{しの}び、すべてを信^{しん}じ、すべてを望^{のぞ}み、すべてに耐^たえる」

わたしたち一人ひとりには、一^い体^{たい}何^{なに}が欠^かけているのでしょうか。自^{みづか}らの言葉^{ことば}と行^{おこな}いを、振^ふり返^{かえ}ってみたいと思^{おも}います。

さて教^{きょう}会^{かい}は本^{ほん}日^{じつ}を、「世^せ界^{かい}こども助^{たす}け合^あいの日^{にち}」と定^{さだ}めています。以^い前^{ぜん}は「児^じ童^{どう}福^ふ祉^しの日^ひ」と呼ば^よばれ、子^こどもた^こちのた^なめに何^{なに}かをし^にてあ^にげる日^{にち}のよう^{かんが}に考^{かんが}えら^じれていま^じました。実^じ際^{さい}には、この日^ひは、子^こどもた^こち自^じ身^{しん}が使^し徒^と職^{しょく}に目^め覚^ざめ、思^{おも}いやりのあ^おる人^{にん}間^{げん}に成^{せい}長^{ちやう}するこ^ことを願^{ねが}って制^{せい}定^{てい}されたもの^{もの}です。で^ですか^から「助^{たす}け合^あい」の名^な前^{まえ}とな^なりました。今^{こと}年^しのテ^てマは「わ^あかち合^あうこ^ころはた^たか^からもの」です。

感^{かん}染^{せん}症^{しょう}の影^{えい}響^{きやう}の^うもと、世^せ界^{かい}中^{じゅう}の子^こどもた^こちもそ^この心^{こころ}と体^{からだ}に大^おきな影^{えい}響^{きやう}を受^うけていま^います。生^{せい}活^{かつ}環^{かん}境^{きやう}の劇^{げき}的^{てき}な変^{へん}化^かによ^よって、心^{しん}身^{しん}に不^ふ調^{ちやう}を来^{きた}していま^いるこ^こども、経^{けい}済^{ざい}の悪^{あく}化^かによ^よって命^{いのち}の危^き機^きに直^ち面^{めん}するこ^こども。世^せ界^{かい}に目^めを向^むけると、助^{たす}けを求^{もと}めるこ^こども^{すがた}の姿^{すがた}が見^みえてき^きます。

生^いきていま^いる神^{かみ}の言葉^{ことば}がと^{しん}もにあ^{しん}るこ^{しん}とを信^{しん}じるわた^{しん}した^{しん}ちは、将^{しょう}来^{らい}の世^せ代^{だい}を担^{にな}う子^こども^こたち^こが、互^{たが}いに助^{たす}け合^あい支^さえ合^あう生^いき方^{かた}を選^{せん}択^{たく}するよ^よう、と^{かみ}もに神^{かみ}の愛^{あい}に生^いきる道^{みち}を歩^{あゆ}んで参^{まい}りま^ましょう。